

甲立古墳発掘調査結果について

生涯学習課

平成22年度から25年度まで発掘調査を実施しました甲立古墳の最終的な調査結果とまとめ、下記の重要な学術的成果がありましたことを報告いたします。

1. 後円部墳頂で確認された「石敷区画」内で検出された家形埴輪の配列について

石敷区画は後円部墳頂南東側の表土下で確認された家形埴輪をその区画内に配列した祭祀遺構とみられるもの。長辺6.3m、短辺は約3m（北東辺が後世の削平で失われている）の範囲に15cm～30cm大の円礫を中心に石列状に敷き並べ長方形の区画をつくっている。

家形埴輪はこの中央部分に1号から5号の5個体の家形埴輪を一行に配置され、各個体周囲に円礫を敷き詰めていたとみられる。この各家形埴輪の基底部は動いた痕跡はなく、古墳が造られた当初の位置を保った状態で検出された。石敷遺構内の土層と円礫、家形埴輪の関係を調査したが、この区画は後円部を造成した際、最終的に整地土として黄褐色砂質土を薄く盛土した上（同一面）に、埴輪と石敷きを構築したもの。

家形埴輪は45～50cm間隔で区画の長軸方向に合わせこの中央に一行に並べ置かれ、交互に長辺、短辺が入れ替わるような方向性で配置されていた。

家形埴輪は次のような建物様式をあらわしている。

- | | |
|--------|----------|
| 1号及び2号 | 切妻造高床式建物 |
| 3号 | 囷形状建物 |
| 4号及び5号 | 小型建物 |

※配列外から出土の落ち込み出土家形埴輪 子持ち家形埴輪

評価

これまで国内の前期古墳で後円部墳頂上での埴輪祭祀に伴う家形埴輪の配置が当初の良好な状態で確認されたものは無く、ほとんどが盗掘や後世の改変を受けており、その状況は推定の範囲で論じられてきた。甲立古墳の出土状況はこの実態を示す初めてといえる事例で、今後の古墳祭祀、埴輪祭祀を研究する上で極めて重要な調査例となった。個々の家形埴輪についても、特に3号家形埴輪は「囷形状建物」と呼称しているが、これまで全国で類例の無い特殊な構造の埴輪である。今後の埴輪研究に一石を投じる資料である。1号・2号家形埴輪は共に切妻造高床式建物を表したもので、細部を除きほぼ同規模、同形態のもの。子持ち家形埴輪のみ原位置が確認できなかったが、この子持ちタイプの家形はこれまで1例（宮崎県西都原169号墳）しか知られていないため今後の研究上重要な出土例となった。またこれに接合するとみられる主屋は伏屋形式のものが推定されており合わせて研究対象として貴重である。

総じて保存状態が良いことからこれまで知られていなかった様々な事実を明らかにしたが、県内においての類似例は無く、中国地方においても乏しい状況であり、全国的視野での資料と考えられる。



石敷区画・家形埴輪配列実測図

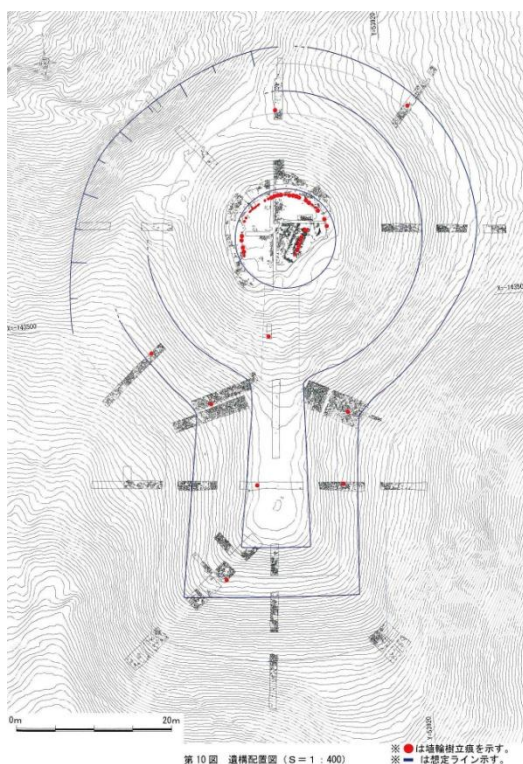
2. 地方では珍しい畿内色の強い前方後円墳とみられること

墳丘は後円部3段、前方部2段の段築で、後円部と前方部の高低差が5mあり、全体として高さのある墳丘を築いている。自然地形を利用した墳丘は、視覚的には100m規模級を思わせる築造である。平面測量の結果からも後円部は正円形に近く、前方部も均整のとれた長方形である。全体として墳丘は基本図(設計図)に基づく高度な築造技術が反映されている。墳丘後円部墳頂での埴輪の検出が顕著で、後円部外周に圍繞するように立て並べられた円筒、楕円筒等の埴輪列、この内側中心に検出した長大な墓壇があり、家形埴輪列を伴う石敷区画がこの南東側に構築されている。これら家形埴輪を代表に、円筒埴輪、楕円筒埴輪など埴輪全体の製作技術が高く、中央(畿内)の埴輪と比較しても遜色ないものである。形象埴輪も蓋(きぬがさ)形、甲冑形に加え、船形埴輪が出土している。特に船形埴輪は全国で出現が認められるのが4世紀末頃であり、甲立古墳出土のものも同じこの最初期のものとなる。

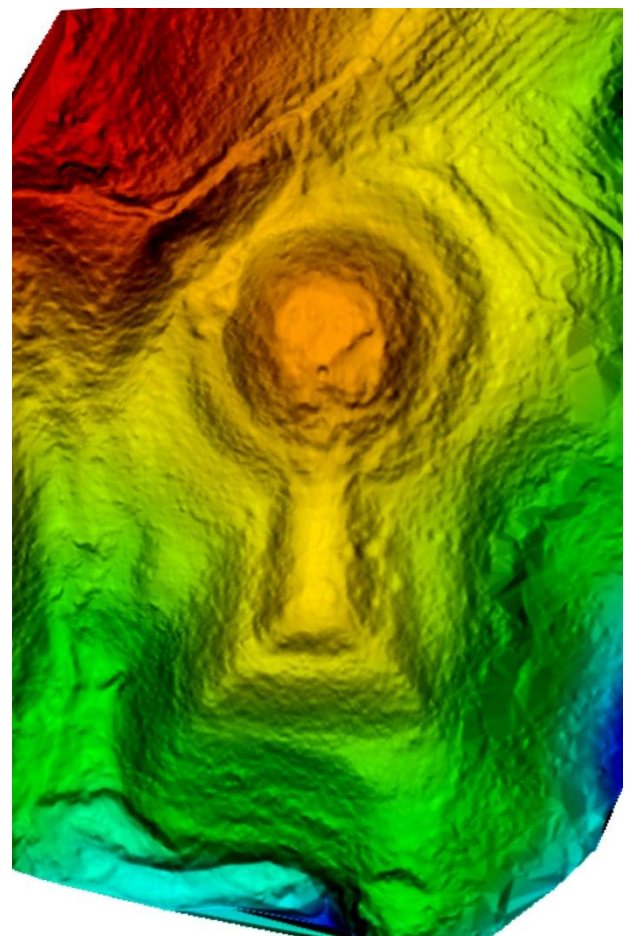
これら総合的にこの古墳は畿内色の強い、直接的な思想、技術の導入がみられる畿内文化そのものを表す古墳として考えられる。

評価

甲立古墳の造られる4世紀末頃の前方後円墳は、主だったものは日本海側、瀬戸内海側の海港に面した立地が知られている。甲立古墳はこの中間地点、内陸交通の拠点に築かれた。こういった古墳分布は、当時の国策として配置されたとみられる被葬者像を反映したものと考えられる。畿内王権の政治的動向に対応する古墳として日本史的視野の中で評価される古墳といえる。



墳丘測量図



墳丘レーザー測量図

3. 高床式家形埴輪の復元が終了し公開すること

今回出土した家形埴輪の中で、最も残存状況が良い（8割以上の破片残存率）2号家形埴輪の復元を行いその全貌が明らかとなった。残りが良好なことで、製作技法の多くの情報が得られ、その資料価値は極めて高いものである。

切妻造高床式建物を表現したもので、高さ68.3cm、最大幅87.0cm。1号家形埴輪とほぼ同規模、同形態のものである。

今後の公開活用に資するために、レプリカを製作している。（レプリカは屋根が分離でき内部構造の観察が可能としている）

